

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	自転車のまちづくり事業	会計	一般会計	事業No.	480	施策順No.	13-010
		事業種別	政策・重点	予算科目	7-1-4-10-8		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	観光課		
施策	13 地域内産業の多様な連携			事業期間	開始	18	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	自転車に保有している人 自転車に興味がない人						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		長野県の自転車保有台数:台	967000	830000	830000	830000	830000	
意図	ツアー・オブ・ジャパンを実施することにより、飯田を全国に発信し、飯田のファンを増やすとともに飯田を訪れる人を増やす。また、地域内の人が、国際レース等が当地域で行われることを誇りに思い、自転車に興味を持ち乗って楽しむ人を増やす。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	イベントに訪れた人(観客数:人)	49500	50000	50000	40000	36000	37000	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	TOJについては、レース当日の天候が雨であったため観客数が例年より減少したものの、飯田を全国に発信すること及び市民の自転車への関心を高めることは出来た。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 TOJ(ツアー・オブ・ジャパン)の実施 (1) 実行委員会への負担金支出 (2) 道路使用調整、レース事務局との連絡調整、コース沿線住民・関係企業等依頼、協賛金対応、警備・安全対策等調整実施、大会地元本部運営等 2 自転車普及・誘客事業 (1) 普及、誘客事業の検討、実施 (2) 自転車のまち推進会議への負担金支出		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 自転車レースの開催 (1) ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージの開催 下久堅周回コース 参加16チーム (2) 温対課と連携した自転車市民共同利用システム事業のPR (3) 南信州ステージ観戦ツアー実施 2 自転車を市民に普及する(ファンづくり) (1) 自転車のまち推進会議(普及部会での検討) (2) 自転車市民共同利用システム(レンタサイクル)運用(まちなかインフォメーションセンター、飯田駅観光案内所) (3) 自転車普及イベント共催 3 旅をする人たちに情報発信(シクロツーリズムの振興) (1) 自転車のまち推進会議(シクロツーリズム部会での検討) (2) シクロツーリズムに向けた情報発信 (3) 情報収集ツアー開催	1 レースの観客数 (1) TOJ観客数 (2) PR事業数 (3) ツアー企画数 2 自転車普及 (1) 会議、部会開催数 (2) 自転車貸出箇所 (3) イベント共催数 3 シクロツーリズム振興 (1) 会議、部会開催数 (2) ツアー情報発信数 (3) 情報収集ツアー開催	1(1) 36,000人 (2) 2回 (3) 1件 2(1) 1回 (2) 2箇所 (3) 2回 3(1) 3回 (2) 3件 (3) 1回
	23年度実施計画	1 自転車レースの開催 (1) ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージの開催 下久堅周回コース(本年度中止) (2) 温対課と連携した自転車市民共同利用システム事業のPR (3) 南信州ステージ観戦ツアー計画(本年度中止) 2 自転車を市民に普及する(ファンづくり) (1) 自転車のまち推進会議(普及部会での検討) (2) 自転車市民共同利用システム(レンタサイクル)運用(まちなかインフォメーションセンター、飯田駅観光案内所) (3) 自転車普及イベント共催 3 旅をする人たちに情報発信(シクロツーリズムの振興) (1) 自転車のまち推進会議(シクロツーリズム部会での検討) (2) シクロツーリズム情報収集と発信	1 レースの観客数 (1) TOJ観客数(中止) (2) 事業数(中止) (3) ツアー企画数(中止) 2 自転車普及 (1) 会議、部会開催数 (2) 自転車貸出箇所 (3) イベント共催数 3 シクロツーリズム振興 (1) 会議、部会開催数 (2) ツアー情報発信数

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	(そ)ふるさと寄附金 200千円
	起債	県支出金						
	一般財源	その他			200			
		計(A)		8,360	8,160	14,000		
		計(A)		8,360	8,360	14,000		
	正規職員所要時間			2,000				
	臨時職員等所要時間							
	人件費計(B)			7,152				
	トータルコスト A+B			15,512				

4 事業に対する市民や議会の意見

・TOJについては、子供たちをはじめ、多くの市民が応援してくれている。コースの沿道では、焼肉、茶話会、旗を作ったの応援等自転車レース観戦を自分たちのスタイルで楽しむ人達が増えている。  
 ・レース開催地である下久堅地区では、コース整備等地域住民からの支援をいただいている。  
 ・議会からは、イベント事業から本格的なまちづくり事業に転換できるよう検討を進め、総合的な自転車のまちづくり計画を策定を求められている。また、市民利用に繋げるために

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域内産業が、多様な連携により新たな経済活動を創出する。	施策の成果指標又はムトス指標	観光消費額(億円) 経済自立度(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのような貢献しましたか	4年間の振り返り	TOJや実業団レースの実施により、飯田市が全国から「自転車のまち」として注目されるようになった。特にTOJは日本を代表する国際ロードレース大会であり、自転車ファンが全国から観戦に訪れ、全国に向けて「飯田」を情報発信する絶好の機会となり、観光誘客の側面で非常に重要な事業となっている。選手、観客の宿泊、地域住民の参加、飯田の発信による経済効果を生み出している。 また、国際大会が地元で開催されることは、市民の誇りであり、地域愛に繋がり、同時に自転車への関心が着実に増加している。TOJを契機として進められた、飯田市の「自転車のまちづくり」は、環境面や健康づくりの観点からも自転車の普及に取り組んでおり、全国的に注目されている。		
	後期に向けた課題	TOJは、イベントとして地域に定着しており、全国に向けた「飯田」の発信や、市民の自転車への関心を高めていることに繋がっている。 観光課としては、更に、「自転車のまちいいだ」の情報発信を行い、市外からの観光誘客に繋げていく必要がある。 飯田市としては、地球温暖化対策課、保健課、企画課等市役所内の関係部署で役割分担と連携をしながら、総合的な自転車のまちづくり計画を策定して、自動車の普及に繋げていかなければならない。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	全国に向けて飯田を発信するため、TOJや自転車普及に向けた飯田市の取り組みをメディアや(財)日本自転車普及協会等の自転車関係団体へ積極的に情報提供を行ってきた。また、自転車の旅(シクロツーリズム)による観光誘客促進のため、自転車のまち推進会議の事業として、ツアーの企画や運営、情報発信を行い、自転車ファンや市民を対象とした自転車普及に取り組んできた。		
	後期に向けた課題	TOJについては、全ステージにかかる経費の見直しにより、広告宣伝費が削減され、メディアへの露出減少が想定される。今後、情報発信の方法等について見直しを行う必要がある。 市民への自転車の普及については、自転車への関心を高める段階から、実際に自転車に乗る段階へ移行する必要がある。事業内容の見直しが必要。自転車による観光誘客については、情報発信の内容を観光客のニーズを把握する必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	TOJについては、交通警備や資機材等関連経費の見直しを常に行い、経費削減に努めている。しかし、公道を利用した国際ロードレースであることから、特に安全確保が求められ、交通警備経費が増加傾向にある。また、自転車の普及や自転車の旅による観光誘客に関しては、より効果の高い事業となるよう、予算と事業の見直している。		
	後期に向けた課題	TOJについては、平成23年度より全ステージで、かかる経費については、各ステージが負担することになり、経費が大幅に増加。また、収入面でも、(財)JKAの補助金が国の事業仕分けによる見直しに伴い、平成23年度から自転車関連事業の補助率が削減された。景気が不安定であり、企業の協賛金の確保も不透明であることから、新規開拓による協賛金の獲得が必要。収入財源の確保が課題。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	TOJは、広範囲に生活道路を交通規制して行う自転車国際レースであるとともに、事業による収益が無いことから、民間主体で開催することは難しい。また、受益者は、参加する競技者、観戦する観光客や市民であり、行政の関与が必要である。		
	後期に向けた課題	TOJは、市費による負担金の他に、(財)JKAの補助金を大きな財源としているが、当該補助金は、政府の事業仕分けで補助率の削減されて流動的である。また、景気が不安定で企業からの協賛金の確保が年々難しくなっている。市の関与として、市の負担金と職員の動員が今後も必要である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	TOJは、実行委員会が主催して行う事業である。実行委員会は、まちづくり委員会や関連企業、各種団体など多様な主体によって構成されている。下久堅地区や松尾地区では、まちづくり委員会がコース整備や警備。ボンジャンズ飯田は、プレイイベント、パレード走行、飯田建設事務所は道路補修工事等をしていただいている。 実行委員以外には、飯友会が、コースの安全対策工事をするなど、それぞれの立場からTOJを盛り上げるために協力いただいております、行政はその活動をバックアップしている。		
	後期に向けた課題	TOJは、広範囲に生活道路を交通規制するため、実行委員のみでの事業開催は難しい。今後も各実行委員がそれぞれの立場から積極的に活動することができるように支援を行っていく。特に地域づくりに繋がるTOJの活用については、住民の飯田への愛着につながる重要な事業であり、今後も積極的に支援していく必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	TOJは、開催回数を重ねてきたことで、市民の間に確実に定着し、地元住民をはじめ多くの市民に夢と感動を与え、飯田を全国に向けて発信するうえで重要な事業となっている。 TOJや実業団レースの実施により、飯田市が全国から「自転車のまち」として注目されるようになり、市民の自転車への関心も高まっている。 飯田市の「自転車のまちづくり」は、環境面や健康づくりの観点からも自転車の普及に取り組んでいる。		
	後期に向けた課題	TOJは、飯田市を代表する事業となっており、今後も継続した開催が必要である。しかし、膨大な費用と人員を要することから、経費の削減や収入の確保を継続的に、市費負担の軽減を図っていく。また、TOJ以外にも、自転車を普及させる事業を積極的に行っていく必要がある。飯田市役所関係部署と自転車のまち推進会議が連携をしながら、総合的な自転車のまちづくり計画を策定していかなければならない。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や目標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------